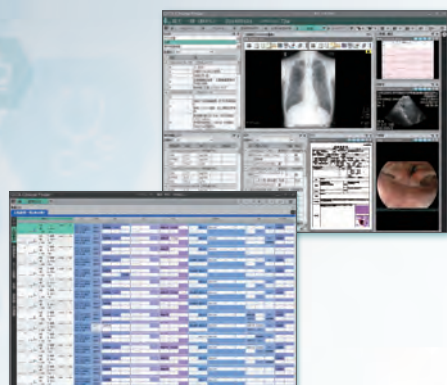


ランチョンセミナー 3

**診療情報の保管だけではない。
業務の効率化・省力化も支えるDACCSの構築**



日時

2021年 **6月11日(金)** 12:40~13:40

会場

第3会場 米子コンベンションセンター ホール棟2階・小ホール

司会

平川 毅 富士フイルムメディカルITソリューションズ株式会社

演者

森藤 祐史 先生 大阪急性期・総合医療センター

診療記録文書統合管理システム(Document Archiving and Communication System:DACS)は、部門分散HISにおいて診療情報をデータ単位ではなく文書単位で管理する。これはデジタルカルテ庫とも言うべき電磁的保存の3原則を尊重したシステム概念であり、2010年に大阪大学医学部附属病院が提唱した。

我々は2014年に富士フイルムグループが当時提供していたApeos PEmaster ProRecordMedical:PRM®を用いてDACCSを構築したが、現在はCITA Clinical Finder:CITA®を基盤にした新たなDACCSの構築・発展を進めている。第2期としての新たな構築では、医療スタッフの目に触れる「ビューア機能の改善」だけでなく、「中央スキャン部門の実務者らが蓄積してきた課題の解決」、「データの二次利用の強化による診療情報管理部門のDX」は外せないテーマとなった。ベンダ主導でのDACCS概念の実装に加え、旧システムの長所の再現などの業務効率や省力化を意識したユーザ視点による機能やGUIの開発も行った。収益に直結しないためベネフィットの測りにくいDACCSではあるが、CITAの既存機能と相乗して存在感の高い基盤となっている。